#### 南小產西高南菊阿大熊本原原 有關所 大熊本市国山町 新町町 村町町村

人口 1 2 3 7 4 7 1 6 6 · 4 · 7 3 · 4 6 5 5 9 7 1 · 7 3 · 4 6 5 5 9 7 1 · 7 5 6 万人人 8 4 9 3 1 7 万人人 人人人人人人

| Table | Ta

平成26年2月1日推計

# 松原子 (九重町) (九重町) (九重町) (6) 「東田田 (7) 「東田田 (7) 大大脚羊 (4) 「東田田 (7) 「東田 (7) 「東田

# ~阿蘇山の大パノラマと熊本城下町~ 阿蘇くまもと路九州横断の道

#### ひとのくに、美のくに九州 (日本風景街道 Q-9)



#### 目 次

# はじめに―火と水の国、そして人の物語

# | 阿蘇の魅力―「火の国」と「水の国」探訪

- 阿蘇登山
- 温泉、名水めぐりと「溪谷と滝」

2

(1) 温泉めぐり

コラム「五足の靴」

- (2) 名水めぐり
- (3) 渓谷と滝
- 外輪山トレッキング

3

### 草原の輝き

草原景観守る「野焼き」

1

- (1)「野焼き」で阿蘇の草原の景観を守り維持する
- (2) 支援のボランティア活動広がる自然と人の共同作業
- 阿蘇神社と「火振り神事」

2

# 鉄壁の熊本城、歴史と文化の街歩き

- 偉容を誇る熊本城探訪
- コラム「肥後六花」

2

- 型ラム「横井小楠と竜馬」 歴史と文化の城下町
- 3 文豪と剣聖が愛した金峰山

コラム「永清文庫」

四 豊後街道を行く

コラム「自然と共に生き、共に育つ子供たち」



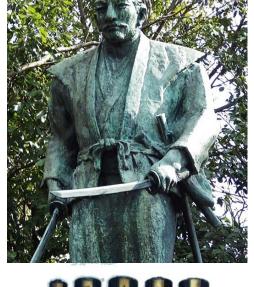
② 草原の景観を守る阿蘇の野焼き

# はじめに―火と水の国、そして人の物

草原と火の山々が織りなす大自然の中の風景街道だ。熊本城下から始まるこの風景街道 中九州横断道路の計画も進んでいる 7号が走っている。 風景街道・くまもと路の中心となる道路(約54km)である。 観光シ 城づくりなど様々な事業に取り組んだが、その中でもハイライトは鉄壁の熊本城と大分 は、「火と水と大地の絵巻物語」とも言える。横断の道を拓いたのは、戦国の武将・加藤 ている。雄大な風景と人々の暮らしが展開するカルデラの円を二つ割るように、国道5 へ九州を横断する豊後街道だ。この街道は、阿蘇五岳の北麓を走る国道57号と並行し ズンには内外から訪れる人と車で渋滞するため4車線化が進められた。大分市と結ぶ 熊本市から活火山・阿蘇、大分まで、九州を横断する風景街道「阿蘇・くまもと路」 は、 肥後54万石の藩主となった清正は、領国を豊かにするため、治水・利水、干拓、

カルデラから遠く九重のやまなみ、九州山地の山々まで雄大な大地が眺望できる。まさ に大観望だ。細川藩に仕えた剣豪・宮本武蔵は「五輪書」③で宇宙は「地」「水」「火」「風」 「空」からできている、と説いている。大観望に立てばそれを実感する。阿蘇・くまもと 豊後街道・二重峠から足を伸ばして、阿蘇北外輪山の「大観望」①に立つ。眼下の阿蘇

【地】武蔵は五輪書、冒頭の「地の巻」で、兵法のまことの道は大から小、浅から深





③宮本武蔵像と五輪書

りだした。 至る。あるいは真っすぐな道に引き直 情報が交流し、豊かな歴史と文化を浩 たが、宿場・街づくりにつながり、人と 切り開いた。苦労の多い道づくりだっ 多い九州を横断する道・豊後街道④を すことが肝要と説く。加藤清正は、起伏

る。 野焼きが続けられ、景観が守られてい もあり、代わってボランティア支援で、 れてきたが、酪農が衰退、人々の高齢化 鮮な草を育てるため「野焼き」②が行わ が草をほおばる高原の牧場で、毎年、新 くまもと路の最大の魅力。肥後の赤牛 阿蘇山麓に広がる草原景観は、阿蘇



豊後街道・境の松阪(産山村)

#### 水

だす。外輪山に囲まれた盆地は天からの恵みの雨をいっぱいに受けとり、地下水となっ だ「湧水」も多い。 心も癒される。流れ出た清水は溶岩を深く削り取り大渓谷を、轟わたる大きな滝を造り て熊本市街を潤す。杜の都・熊本市民は阿蘇の水の恵みによって暮らしている。 温泉、水、そして食。「ゆったりの寄り道」づくりを目指している。 阿蘇五岳の麓には「水の国」がある。人々を癒す温泉が至る所に湧きだし、冷たく澄ん 「火の国」の激しさとは対照的に、 透明でみずみずしい若水に、

草原を創り出した。春の野焼き。阿蘇神社には、燃える松明を振り回し、火の輪を描く 山・阿蘇中岳、荒々しい溶岩の塊のような根子岳などの休火山群。太古からの4回に渡る 「火振り」神事⑭もある。いずれも「火の国」 世界一の規模を持つ阿蘇カルデラの中央には、阿蘇五岳①が座る。噴火を続ける活火 熊本から大分までの九州中央部の山々とその裾野に雄大に広がる大 (肥の国) を象徴する風景だ。

阿蘇の軟らかい溶岩(溶結凝灰岩)を使った装飾古墳群、 残した熊本城や数々の土木事業、 草原を吹き渡る風のように、くまもと路には「文化と技術の風」が吹いている。古くは 文芸に造詣が深かった細川家歴代藩主の宝物や芸術 高い橋梁技術の石橋群、







そして、肥後六花もある。

再生の動きも活発だ。 どの障壁画が華やかに復元され、新しい魅力を増している。昔の風情を残す新町、古町の だ。細川家に引き継がれた熊本城は、武者返しの石垣ほか、本丸御殿の「昭君の間」⑤な 風景街道の起点となっている熊本城と城下町も、歴史の歩みを楽しむ貴重な地域資源

に保存されているのも、熊本市の魅力だ。 ン)徳富蘇峰など熊本に生き、文化の風を吹かせた著名な人物の旧居、ゆかりの地が大切 幕末の思想家・横井小楠、明治期に夏目漱石、寺田寅彦、小泉八雲(ラフカディオハー

州横断・くまもと路は訪れる人々の心と体を解き放つ風景街道だ。 武蔵は、兵法の奥義を「空」、心身ともに、何物にも縛られない自由の境地と説く。

風景街道、 二重峠~内牧~坂梨の宿までは、並行する豊後街道(旧国道) 阿蘇・くまもと路は国道57号を中心としているが、カルデラ入口の立野 沿いに、歴史を物語

> 6 心行の桜 ゼ並木の保存に努めている。 り、新しい杉苗を植えたり、 400歳の老杉を手当てした ランティアの会」の人たちが、 で、現在も「並木樹街道守るボ に力を入れた。その遺志を継い 保存の触れ」を出し、維持管理 に杉の大木が並ぶ。清正は「杉 約15kmにわたり道路両側 ⑦に出る。 道幅は40m余り を抜けると杉並木の大津街道 の辻から始まる。 頂上から急崖の道を降りて、泉

豊後街道は、熊本城近くの札

造られ、現在も保存されている。加藤家の後を継いだ細川家も、豊後街道を江戸への参勤 急坂は石畳。崩れやすい火山土壌の道を溶岩で補強しているが、道の造成、維持管理には 大変な労力が費やされた事だろう。石畳の道④は二重峠だけでなく、滝室坂など難所に 交代に使った。藩主の休憩や宿泊用の「御茶屋」も大切に保存されている。 量豊かな内牧温泉へ。峠からの

様々な体験学習を行っている。 約200人が大名行列さながらに六泊七日をかけて、終点の大分・鶴崎の港までを歩き、 するイベント「九州横断徒歩の旅」が毎年夏行われる。参勤交代の豊後街道を小・中学生 豊後街道沿いに展開する大自然の風景と歴史、文化を知り、そして旅の苦労を追体験

がゆっくりと走る。 岳を背景に、咲き誇る一心行の大桜⑥を中心に、水源の里が連なり、高原トロッコ列車⑫ 阿蘇・くまもと路の「中心となる道路」は、南阿蘇を走る国道325号もある。阿蘇五

九

そば街道も人気で、阿蘇・くまもと路に新しい魅力を加えている。 府一の宮線、約22km)がある。渓流沿いに軒を並べる温泉宿は山間の秘境を演出する デザインで統一され、温泉めぐりの浴衣姿で木札を手にした若い湯治客が多く見られる。 もう一本の道、阿蘇市・宮地から黒川温泉などで知られる南小国、 小国町に延びる(別

「清正公道」になる。坂道を登

、やがて二重峠に着く。峠の

大津から外輪山に入ると、



# 一阿蘇の魅力

―「火の国」と「水の国」探訪

ラ (鹿児島湾口、開聞岳) 三つの巨大カルデラが縦に並び、さらに南の海中に鬼界カルデ

その南に加久藤カルデラ(えびの、霧島連山)姶良カルデラ(桜島、

錦江湾)阿多カルデ

もっと上空、人工衛星から見下ろすと、阿蘇カルデラは九州の「へそ」の位置にあり、



⑧ 噴煙上げる阿蘇中岳

ラ(硫黄島など)がある。九州は火山島、 阿蘇はその代表格の火山なのだ。

れできた地下空間が陥没、カルデラが形成された。 を繰り返し、その火山灰は九州全域に及んでいる。 阿蘇は約30万年前の最初の爆発から、 9万年前までの20万年の間、 火砕流など大量の噴出物が吐き出さ 4回の大爆発

から続く中央構造線沿いの地溝帯(別府・島原地溝)の上にあり、200年の沈黙を破っ での最高峰・久住山(1778m)と肩を並べる火山の山々が連なっている。 阿蘇カルデ て大爆発した雲仙・普賢岳から阿蘇―九重連山―由布―鶴見岳と火山が続き、九州本島 阿蘇カルデラはひときわ大きく、世界最大級の規模を持つ「火の国」だ。四国・吉野川 九州を横断する風景街道、阿蘇くまもと路と同やまなみ道の主役であり、長崎から

別府まで火山連山を結ぶ、独特の景観を持つ観光ルートの中心。

博物館・世界ジオパークでもある。 (雲仙国立公園) と共に国立公園第1号であり、共に大地の

観など「癒しの観光」に大勢の外国人を含む観光客を魅了してい 立ち入り規制など観光面での影響を受けている。そうした被災と 同時に「火山の恵み」も大きい。大草原をはじめ素晴らしい自然景 で大きな被害を受ける。阿蘇中岳も活動が活発になり火口付近の 雲仙普賢岳の火砕流や桜島の火山灰など周辺住民は爆発・噴火

温泉と湧水は阿蘇盆地を舞台とする「風景街道阿蘇くまもと路」の な水量は灌漑用水として阿蘇盆地を潤している。火山に養われた かれて、多くの人がポリバケツを車に、水汲みにやってくる。豊か 湧水源は白川水源など広く知られ、その清らかさとおいしさに魅 大きな財産・地域資源となっている。 温泉だけでなく清水も無数に湧き出ている。なかでも南阿蘇の

茶臼山はその最先端になる。 山の西隣は広大な大地となって次第に高さを減じ、熊本城が立つ 立野付近で外輪山を深く削り取り、熊本市へ流れ下って行く。外輪 白川は外輪山の雨水・表流水と湧き水を集め、黒川と合流して、

峠を掘削、 ルだったが、工事途中で大量の湧水が吹き出して、工事中止に追い の台地は浸透性が高く、水瓶のように地下水を溜めこんでいる。 結凝灰岩が幾層にも重なってできている。このため外輪山と周辺 赤ぼく、無数の空隙を持つ(多孔)軽石混じりの砂礫層。溶岩や溶 この台地は噴火による火砕流によって形成され、表面の黒ぼく 水瓶を証明するものが高森湧水トンネル公園①。外輪山の高森 、五ヶ瀬、 高千穂、延岡への横断鉄道建設のためのトンネ

> 噴き出している。 込まれた。ひんやりとしたトンネルを歩いて進むと、最奥の岩盤からは今も激しく水が

岩が地表にあっても柱状節理など大きな割れ目を作りやすく、雨水を浸透させる。溜ま て流れてゆく。 った地下水は下層の水を透さない硬い地層(不透水層)の上をゆっくり熊本市に向かっ 豊かな阿蘇カルデラの水は外輪山外側の台地の下をくぐって熊本市にゆっくり流れ下 爆発によって幾層にも堆積した火山噴出土がスポンジのように大量に含み、 また溶

なしの自噴井の水源地として、 豊かな深層地下水は、 江津湖など湧水湖となって熊本市内の各所で湧き出し、ポンプ 熊本市の上水道の全てを賄っている。また、「杜の熊本

1 阿蘇登山

の水に育まれている。

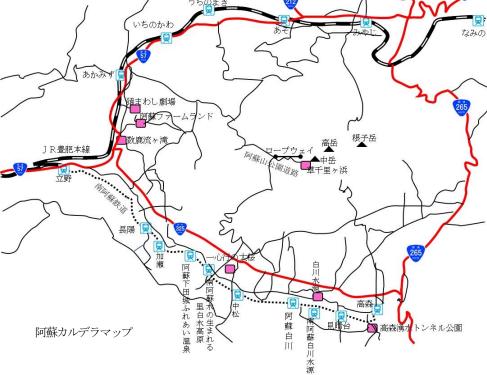
水前寺成趣園など魅力的な庭園文化もこ

峰、虎ヶ峰などと呼ばれるように、天を突き刺 すように岩峯が並ぶ根子岳、烏帽子岳、 上げ続ける中岳、最高峰の高岳、天狗峰、 阿蘇山は「阿蘇五岳」の総称である。 噴煙を

根子岳も熊本地震以降、 が、火山ガス噴出の為、火口付近や中岳・高岳 は生きている」を思わせる最大の見どころだ い。いずれも入山規制が行われており、事前に 阿蘇村役場、観光協会などに確認が必要。まだ、 への登山は規制されている。事前に阿蘇市、南 中岳の火口縁から吹き上がる噴煙は、 岩石崩壊の危険が高

行けど 行けば薄の原広し (夏目漱石)

観光バス、マイカーで行ける。 キ原の細道を辿ったが、今では草千里までは き上げる中岳に向かって、どこまで続くスス 験を描いている、轟くように音と共に煙を噴 夏目漱石は作品「二百十日」で阿蘇登山の体



津岳⑨を眼前にした。
「日本百名山」の深田久弥は高岳に立って、根

は対照的にゴツゴツした岩稜で出来ている」で独立した恰好でこちらのなだらかな山容と(猫岳)岩山の姿で立っている。同じ五岳の中私は霧が晴れるのを待った。東の方に根子岳和は霧が晴れるのを待った。東の方に根子岳

(深田久弥「日本百名山」)

根子岳(1408m)へは、同じ仙酔峡から地子岳(1408m)へは、同じ仙酔峡から直が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口まで行き、道が分かれて、約5㎞、車で登山口までは、同じ仙酔峡から



### 地下に浸み込み、阿蘇には、いた

湯もある。 湯いに黒川温泉やわいた温泉がある。阿蘇には、白い湯もあれば、赤い湯、湯の花浮かぶ久木野温泉など、山間にも垂玉温泉など数多い。外輪山を越えて北麓出ると、山間の渓流地下に浸み込み、マグマに熱せられる。北阿蘇には漱石が楽しんだ内牧温泉、南阿蘇にも阿蘇には、いたるところ、温泉が湧き出ている。お盆のようなカルデラ内に降った雨が

#### 〇内牧温泉

登山した夏目漱石も泊まった。て、完全に蘇っている。」(稲吉淳一・阿蘇市観光協会会長)与謝野鉄幹・晶子夫妻、阿蘇明治中期,約120年前と言う。水害、地震で大被害を受けたが「阿蘇観光の基地とし「阿蘇カルデラ内(阿蘇市)にあり、阿蘇五岳が一望できる大温泉地。発祥は比較的新しく



「うん這入ろう」
前に温泉にはいろう。君いやか」
「何だか寒いじゃないか。ちょいと夕飯

印が押してある。には都らしく宿の焼た人庭に降りる。

圭さんと碌さんは手拭いをぶら下げ

(夏目漱石「二百十日」)

一漱石の「二百十日」は、北阿蘇・内 牧温泉が一つの舞台になっている。ビー なとだけた答え。そんなユーモアある会 ととぼけた答え。そんなユーモアある会 ととぼけた答え。そんなユーモアある会 た小説だ。現在の内牧温泉は約三十軒の た小説だ。現在の内牧温泉は約三十軒の たか説だ。現在の内牧温泉は約三十軒の たか説だ。現在の内牧温泉は約三十軒の たか説だ。現在の内牧温泉は約三十軒の たが説だ。現在の内牧温泉は約三十軒の 大きな温泉宿、というより温泉ホテルが 建ち並ぶ。漱石ら二人は、ここから阿蘇・内 に登っている。

# 2 温泉、名水めぐりと「溪谷と滝」名水めぐり

地、テーマパーク、ゴルフ場から「猿芝居小屋」まで各種の施設が充実している。キング」など阿蘇の魅力が満喫できるバイウェイ(寄り道、脇道)へ。また、牧場や遊園阿蘇を回る325号だが、そこから「温泉、水源めぐり」「阿蘇五岳登山」「外輪山トレッ阿蘇を楽しむための「中心となる道路」は阿蘇五岳の北麓を走る一般国道57号と南

雄大な景観と山歩きが楽しめる。九州自然歩道のトレッキングコースも案内しよう。8㎞もある。このうち北外輪山の大観峰は阿蘇全景を一望におさめ、南外輪山は阿蘇のックな景観の中に四季の彩が楽しめる。それらを抱きかかえるように阿蘇外輪山、12源めぐり」で火の国、水の国を、また水が掘り込んだ大渓谷や落差の大きい滝もダイナミ阿蘇盆地内と外輪山北麓の南小国、小国を含めた「阿蘇温泉めぐり」、南阿蘇の湧水「水

## ○垂玉温泉、地獄温泉

登って行く。 登って行く。 登って行く。 登って行く。 登って行く。 を浴びながら垂玉温泉への「垂玉温泉」だ。今は車で登れるが、当時は「山の道は近くて遠い」。5人は漱石の小の「垂玉温泉」だ。今は車で登れるが、当時は「山の道は近くて遠い」。5人は漱石の小与謝野鉄幹、北原白秋、吉井勇、木下杢太郎、平野万里が訪れたのは南阿蘇、阿蘇山中

女がぶっきらぼうにいふ」 「くるりと道が回ると、忽然として山塞が現れた。あれは何だ。あれが湯ですと小さな

高く堅固な石垣、古めいた家の造り、今も変わらない。

に一味の優しさを加えた趣がある。これが垂玉の湯である」 「邊の要害といひ如何見ても城郭である。天が下を震わせた昔の豪族の本陣らしい所

(紀行文「五足の靴」)

の問い合わせを)
(熊本地震の為、垂玉温泉、地獄温泉への道路が通行止めになっており、南阿蘇村などへ下ろす大きな眺望、見上げる夜空の星も美しい。当時と、何も変わっていない。春は新緑、秋は紅葉の中を「滝の音面白き山を負ひ」水が幾筋も落ちて、秘境の湯から見

## 〇小国、南小国の温泉郷

火の国の 火の山裾の 山なみの 幾尾根越えて 小国やはある

**局兵虚子)** 

全国の温泉ランキングでトップの人気を誇っている。 
と (3軒)にでも入れる。3軒はしご酒が出来る「かっぽ手形」も。こちらは1500円。には小国杉製の入湯手形(直径10cm)。これを買え(1300円)ば、どこの露天風には小国杉製の入湯手形(直径10cm)。これを買え(1300円)ば、どこの露天風には小国杉製の入湯手形(直径10cm)。これを買え(1300円)ば、どこの露天風には小国杉製の入湯手形(直径10cm)。 
これを買え(1300円)が、どこの露天風には小国杉製の入湯手形が表示が下駄の音を立てながら露天風呂めぐりをしている。 
呼ぶいに温泉宿が軒を並がら国道442号で、黒川温泉で知られた南小国町に入る。渓流沿いに温泉宿が軒を並が高い出外輪山、大観望のそばを国道212号で、あるはやまなみハイウエイ・瀬の本

つてはサンショウウオが生息していたほどで清流を保つ努力が日々、重ねられている。ている。シャクナゲを山一面に咲かせている人もいる。大河・筑後川の源流でもあり、か人、後藤哲也さんで、地震もノミと哉図地で洞穴の湯を作るなど手造りの工夫を凝らし粛、旅館は黒トーンで町全体が「一つの宿」を演出している。リーダーは温泉旅館主の一温泉街の中心は身代わり地蔵さん。地域全体がタケ、ナラ、クヌギの雑木類、看板自

# 紀行文「五足の靴」(与謝野鉄幹、北原白秋、吉井勇、木下杢太郎、平野万里)

๖ぅ७

彼らの心をとらえたのは長崎、島原、天草の「南蛮文化」と「キリシタン」。特に天草の大江天主堂で五〇 月かけて旅行した紀行文で、新聞に連載された。明治四○年(1904)七月末、東京から九州入りした。 年に渡って布教をつづけたガルニエ神父との出会い。北原白秋はこの旅をきっかけに「邪宗門」を書いたほ の石碑が建っている。ここから噴煙の中を、中岳火口見物に登っている。 た富岡城、下田温泉、牛深までの道なき道の徒歩旅行をしており、五足の靴文学遊歩道もある。 か、他の四人もそれぞれの文学活動に大きな影響を受けている。島原の乱で天草四郎軍が攻め落とせなかっ 与謝野鉄幹をリーダーに、五人の文学者が福岡~柳川~平戸・佐世保~天草・島原~熊本・阿蘇を約一か 一行は、熊本から馬車で阿蘇に向かい、山道を歩いて垂玉温泉へ。現在、 温泉旅館の駐車場に「五足の靴

ともにゆきし友みなあらず、我一人老いてまた踏む天草の島(吉井勇)

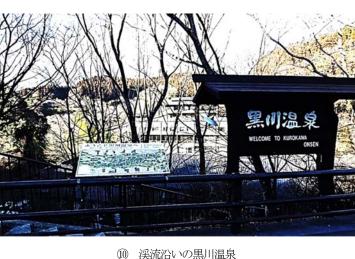
昭和二七年、吉井勇はひとり、

大江天主堂を再訪した。



小国、南小国の温泉マップ





が勤める北里大学の創設者、北里柴三郎記

小国には、ノーベル賞受賞者・上村智氏

婦滝など渓流散策も楽しい。

の森・大谷渓谷、七滝の森男滝と女滝の夫

郷」、さらに下流には杖立温泉がある。南小

小国町は筑後川の源流に当たり、

川べりで湯あみする素朴な温泉が多い。川

山間の「わいた温泉

近くに清流沿いの万願寺温泉、

#### 2 名水めぐり

活用した木魂館もある。

坂本善三美術館、

豊富な木材資源を

る若い女性グループも。 ウォーキング(約2時間)、 日本一、とんがり帽子のおしゃれな駅から 白川沿いを源流に向かって遡る。 その名も 「南阿蘇水のうまれる里白水高原駅」に到 南阿蘇鉄道のトロッコ列車で、 名水めぐりの始まりだ。 サイクリングす 駅名の長さは 立野から

あるが、まずは、夏、ホタルが舞う寺坂水源 モの皮むきに重宝している」という。 家が工夫を凝らした小さな水車で、「サトイ ガタゴト音を立てて回っている。 の御手洗に使われた。小川に、いも水車が へ。清正の時代、建てられた玉泉山正教寺 駅周辺にも寺坂、川地後、湧沢津水源が 地元の農

かんね」と誘われた。 の歓声が聞こえる。「あんたもプレーして行 辺は広々としたパークゴルフ場で老若男女 かう。有名な一本の老桜だが、その美しさ に満開時は車が動かないほど渋滞する。 ちょっと、寄り道して「一心行桜」⑥へ向 周





(上) と高森湧水トンネル公園

中松駅近くの「池の川水源」へ。遊水池に武将の兜に似た大石があり、湧き水が増えて

兜石を水面下に沈めると、大雨に見舞われて凶作、姿を現すと豊作を村人は予想した。 ばれ、ここの水を飲むと子宝に恵まれると伝えられ、近くの群塚神社の産神さま参拝と 降りる石段が用意されている。 近くの**明神池名水公園**の水量豊かな湧水は 「誕生水」 と呼 家の城の全ての使用水をまかなった。それだけ豊富な湧水で、石垣で囲まれ水汲み場へ 次は、小池水源から「吉田城御献上汲場」。ここに湧き出る清水は、阿蘇家重臣・吉田 お参りする夫婦が多い。

バスで訪れる中国人客なども多い。毎分60tもの豊かな湧水は、渓流となって白川に 流れ込む。水源の守護神・吉見神社があり、細川の殿様も「領地養田の源神」とたたえ、 「水生まれる大阿蘇の吉見の森の神の水真砂子が湧きて溢れたるかな」と石碑に刻まれ 水源めぐりのハイライトは名水百選の「白川水源」⑪。 南阿蘇白川水源駅からすぐだ。

らせようとした。しかし、工事は出水のため何度も中断、 にトンネルを掘って、高森線と高千穂線を繋ぎ、 った。湧水トンネルの最奥の岩壁からは、現在も激しく水が吹き出ている。 の高森峠越えは九十九折で、 トロッコ列車の終着駅・高森駅近くには、 **高森湧水トンネル公園**⑪がある。 阿蘇外輪山 高千穂町との境界近くの山頂付近はループで越える。ここ 熊本から延岡までの九州横断鉄道を走 ついには工事中止となってしま 阿蘇五岳、

輪山共に、水瓶のように、大量の地下水をためこんでいるのだ。それが山麓で湧水となっ て田畑を潤し、人々の心も潤す「恵みの水」になっている。

## ◇ 扇棚田と山吹水源 ◇

引いている。原生林に囲まれた池に吹き出すように水が湧き出ている。ここのほか名水 軟らかい曲線を描いて広がっている。この田で出来るコメは「米造り百選」にも選ばれて 百選の池山水源などもあり、小さな石仏が水を守っていた。 いる。うまい水がおいしいコメを育てるのだ。美味しいはずで、水を名水・山吹水源から 同じ阿蘇の産山村には棚田百選に選ばれた「扇棚田」がその名の通り、幾重にも扇状に



扇棚田(産山村)



#### (3) 滝と渓流

るだけの「水無川」だが、次第に合流し、幅を広く深くして行く。 状に無数の谷を造る。最初はガリ(雨裂)と呼ばれる溝に過ぎない。降雨時だけ水が流れ 円錐形の阿蘇山とその外輪山は、山の頂上から雨が流れ落ち、東西南北、四方へ放射線

その典型が、中岳と高岳の間に出来た仙酔峡(阿蘇市)だ。阿蘇山が大爆発した時、溶岩

来た。5月になると、谷全体をミヤマキリシマが赤ピンクに染め上げる。 流が流れた跡とみられるが、その後、水無川として浸食され、現在の深く険し

流れ落ちた泥と大石が田畑を埋没させ、家屋を押しつぶす大被害を出している。 が合流して、道路を埋め尽くした。隣接する旧豊後街道の宿場町・坂梨付近でも土石流で 崖を国道57号が登る滝室坂では、平成24年の豪雨で3つのガリ谷で発生した土石流 外輪山でも、こうしたガリの谷は発達、土石流など災害も多く発生する。東外輪山

白川となって、外輪山の切れ目の立野で合流、熊本市に流れ下る。トロック列車はその深 い渓谷の上を走っているのだ。 外輪山からカルデラ内側に流れ下った雨は、湧水と共に、北阿蘇では黒川、南阿蘇では

に発達して、豪雨を呼ぶことになる の大観望から一面、雲海が広がり、風物詩になっている。霧が発生しやすく、これが雨雲 阿蘇地方は熊本市に比べて、年間1300㎜も多い、約3300㎜にも上る。北外輪山

深くえぐられた渓谷には滝が多い。

を道連れに滝に飛び込む。日本の滝百選。 幅約20m、 7号沿いの阿蘇大橋のやや上流にその「**数鹿流**(すがる)**ヶ滝**」がある。案内板を頼りに 小道を100m程も下ると、滝の正面、滝の音と涼風が吹き上がってくる。落差60m、 夏の滝は阿蘇・黒川の「数鹿流ヶ滝」(南阿蘇村)。南阿蘇と北阿蘇の分かれ道、国道5 この滝に落ちたという由来から、という。徳富蘆花の「青山白雲」では牢人が監視人 滝壺も大きく青い。数鹿流の名は、阿蘇大明神に追われた鹿が、逃げ場を失

うとした。「阿蘇の山 4歳の白菊の、南阿蘇に伝わる物語。 苦難が続き、絶望のあまり、この滝に身を投げよ

「孝女白菊の像」もある。西南戦争で薩軍に参加、賊兵として追われる父を探し求める

落ちる水が細く、白糸 絵本でよく知られて 里秋深けて眺寂しき のようで、この名がつ 原村)。その名の通り、 もある「白糸の滝」(西 いたが、今はどうだろ と美文調の長編詩や 夕まぐれ」(落合直文) もう一つ、寄姫伝説



貴 夏はライトアップされ、 滝の畔で、美しい寄姫に男が会い、思いを寄せるが、実は白い大蛇だった、という。 滝の美しさは 一段と増す

男滝より20mも高い。 冬の滝は、 雪氷の滝となる。 東外輪山の古関の滝 冬 阿蘇の冷え込みは厳しく一月から三月には滝全体が凍りつ (阿蘇市)。女滝と男滝があり、 女滝は落差100mと

の声援で国が支援、 ング」と呼ばれ、 立野渓谷を渡る鉄橋、 、阿蘇観光のハイライトだったが、熊本地震で不通に。しかし、全国から 鉄橋も再建されることになった。 南阿蘇鉄道のトロッコ列車から眺めた立野渓谷は「キャニオニ

が出来る。 生林(天然記念物)、新緑の春も、紅葉の秋も渓谷美に見惚れる、豊かな時間を持つこと 謝野鉄幹・晶子夫妻の歌碑がある。黒川の深い岸壁には、縦に長い柱のように、割れた柱 熊本地震に奇跡的に生き残った阿蘇長陽大橋は平成29年8月復活。立野火口瀬で黒川 状節理の連なりが人の手で模様を彫り込んだように眺められる。白川左岸の外輪山は原 と白川は合流して熊本市へ流れ下る。橋のたもとの小公園から、二つ渓谷が眺められ、 **与** 



コ列車と立野渓谷

球・大地のパワーを見せつける「阿蘇ジオ すさまじさと大被害を引き起こしたが、地 たアーチを描いた阿蘇大橋を落橋させた 大斜面崩壊をはじめ、 ーク」の主舞台でもある。 黒川の右岸は阿蘇のランドマークだっ 急崖が崩落、 地震の

### 3 外輪山トレッキング

8号やグリーンロードなどからスタート 外輪山トレッキングは、俵山から高森峠ま 外輪山のトレッキングが魅力的だ。南阿蘇 コースが用意されている。いずれも県道2 で約30kmの尾根歩きが主体のコース できる。 阿蘇五岳を輪を作って、取り囲んでいる 縦走は1泊2日の行程。日帰りでは5

鳥のさえずりが慰めてくれる。 難所が続くと思えば、四季折々の草花、 雄大な景観を楽しめる。尾根歩きだけでな 向こうに阿蘇五岳が涅槃の姿で横たわる から眼下に広がるカルデラ内の田畑、その く、高低差厳しい上り、巨石をすり抜ける 水峠⑤清水峠~高森峠の5コースで、 ~本谷越③地蔵峠~駒返峠④駒返峠~清 西の①俵山~地蔵峠②地蔵峠~冠 ケ岳 小

漠を見慣れた目には、そうなのかもしれな パクトな眺望がイイデスネ」。大草原や砂 リングを楽しむ若者が多い。バイクを止め れてバイク・ライダーに人気のグリーンロ カルデラ景観に「全体が眺められて、コン ードには、最近、外国人ライダーやサイク 外輪山中腹を走る、ケニーロードと呼ば 地蔵峠に上る人もいた、 地蔵峠からの

駒返峠



#### (九州自然步道 阿弥陀座像 城が 2km 20分 130分 2.0km 長谷峠 多津山峠 たかじょ 九州自然歩道 高千穂野





外輪山 地蔵峠

# 蘇・草原の輝き

## 1 阿蘇の草原景観を守る「野焼き」

# (1)「野焼き」で阿蘇の草原の景観を守り維持する

発で陥没してできた盆地。山の麓にかけて大草原が広がる。草原は風景街道・くまもと路 の、最大の魅力となっている。 輪を造る外輪山、カルデラは東西18km、南北25km、9万年前まで4回に及ぶ大爆 阿蘇カルデラが一望できる北外輪山の「大観望」①に立つ。阿蘇五岳を中心にぐるりと

焼き、草が育った夏に牛が草原に放たれる。 秋が来ると冬の飼料用に刈り取られ、 野積み 草原は野焼き⑬で維持されている。各集落で共同管理され、冬枯れした草原を春に野

枯草につけられた火は燎原之火となって、阿蘇盆地を煙が覆い尽くす。黒く焦げた山肌 草原のハイライトは春の「野焼き」。厳しい冬が過ぎ、春の訪れと共に枯野を焼き払う。

> てる。野焼きの火は牛たちを悩ますダニも退治してくれる。 には、やがて、小さな芽を出し、若草が育ち、軟らかい草は牛たちの好物となり大きく育

るようになった。最初は、経験のない人々の野焼きは危険との心配もあったが、研修や指 導者養成などの努力が重ねられ、今は、すっかり定着して、春の欠かせない阿蘇の行事と 火にまかれて犠牲者も出た。「草原を守れ」と、ボランティアやNPOが参加して行われ ん増え、草原は消えて行く。「野焼き」も農家の老齢化で人手不足となり、九重高原では 近年、酪農家が減り、野焼きが出来ない原野が多くなった。放置すれば、雑木がどんど

原の路傍にスミレ、紫の小さな花弁が風に揺れている。 野焼きが終わって、黒い地肌に、芽吹き始める。初夏、若草がグングン伸びて行く。草

菫ほど 小さき人に 生まれたし (夏目漱石)

蘇では牛優先が規則だ。 と、阿蘇名物の赤牛が草を食んでいる。彼らが道路を横断するときは、車はストップ、阿 春はリンドウ、夏はユリ、キスゲなど野の花が、広々とした草原に咲き誇る。のんびり

守る」こと。 境省九州地方環境局)が結成された。牧野組合、畜産、 ンバー。目標は「暮らしに恵みをもたらす草原を守り、人と生き物が共生する草原環境を 阿蘇の草原を残すため、2005年、阿蘇草原再生協議会(高橋佳孝会長、事務局・環 NPOなど103団体、個人かメ

あってこそ、草原の景観は守られる。風景街道・阿蘇くまもと路の大きな活動だ。 年、阿蘇の雄大な草原景観は、多くの人の活動、努力によって守られ、維持されている。 局に福岡・熊本の経済界、マスコミを中心に支援の輪が広がっている。協議会結成から十 募金キャンペーンを始め、草原を守る運動がスタート、「阿蘇グリーンストック」を事務 その5年後(2010年)「阿蘇草原再生千年委員会」(現在坂本正委員長)が草原再生 景観は自然に放置するだけでは、維持できない。景観を守り維持する、粘り強い活動が

# (2) 支援のボランティア活動広がる自然と人の共同作業

覆う。「野焼き」の始まりだ。 煙を吐く中岳―。周囲取り巻く外輪山の山々の中腹から上は、この大観峰も含めて、晩秋 のように、二月中旬、枯れ野の一部に火が入れられる。メラメラと燃え広がり、黒い煙が から冬にかけてススキとカヤの枯れ野、薄茶色の寒々しい風景が広がる。春近し、の合図 阿蘇外輪山の「大観峰」。正面に阿蘇五岳、のこぎりの歯のような根子岳、

この草原景観は、手つかずの自然景観ではない。自然に、「野焼き」という人間の手が景を変えて行く。阿蘇全体が、季節に合わせて、四季折々、衣替えをしているようだ。は枯野の薄茶色、野焼きの火と煙、そのあとの黒々とした大地、そして若草の草原へと風は枯野の薄茶色、野焼きの火と煙、そのあとの黒々とした大地、そして若草の草原」だ。冬く大草原を創りだす。日本風景街道、阿蘇・くまもと路が誇る景観「千年の草原」だ。冬払い、新しい芽吹きを助け、草が育ちやすくする。若草は、日光を浴びて、やがて緑に輝野焼きは、春の始まりと言うより、春を呼び込むために行われる。山を覆う枯草を焼き

などボランティアの支援を受けて、野焼きを行っている。少子化が進んで、自力では「野焼き」が難しい約60牧野組合が、「グリーンストック」少子化が進んで、自力では「野焼き」が難しい約60牧野組合が、「グリーンストック」ている牧野組合が行っているが、残りの約5800haは一般ボランティアが手助けし野焼きが行われるのは、阿蘇地域全体で約16000ha、その3分の2は牛を放牧し

加えられて生まれる。自然と人の共同作業で作られる草原なのだ。

う気持ち」だという。参加者は年々増え、延べ2000人にも広がっている。その多くが「草原への有難うといたボランティアなど110人が手作りの「火消し棒」を手に参加した。その後、現在では野焼きボランティアの活動が始まったのは、平成11年(1999)。呼びかけに集まっ

回開催)を受けて作業に当たる。最初は事故を懸念する声が地元から聞かれたが、その真の方法は勿論、地形、その日の風の向きなどに十分な気配りが必要だ。事前に研修(年5ロールするのがボランティアの分担。また、火が広がらないよう、事前に「輪地切り」とはベテランの牧場組合員が行い、燃え広がるのを火消し棒で叩いて延焼を防ぎ、コントこともある「命がけの仕事」なのだ。風向きをよく判断しなければならないため、火付けこともある「命がけの仕事」なのだ。風向きをよく判断しなければならないため、火付け

000人のうち、熊本県内6~70%、福岡など県野焼きが行われるのは日曜日で、4月末まで続く。参加するボランティアは延べ約2

面目な支援活動ぶりに信頼は高まっている。

若々しい草を食べさせ、大きく育てる。野焼きはそ阿蘇の草原での放牧は、育牛の為に行われている。

50か所にもなっている。 野は最初7か所だったのが、現在は約厳しい。有畜農家がなくなった地域も厳しい。有畜農家がなくなった地域も産肉牛の輸入増加など取り巻く環境はだが、農家の高齢化、後継者不足、外国うした 生業」の為に行われるのが基本

では、需要拡大の道を探っている。 
を必要とする飼料や堆肥づくりのほか、茅葺屋根、ハウス栽培の敷物などか、茅葺屋根、ハウス栽培の敷物などか、茅葺屋根、ハウス栽培の敷物などか、茅葺屋根、ハウス栽培の敷物などを受けたい」と阿蘇グリーンストックを受けたい」と阿蘇グリーンストックを受けたい」と阿蘇グリーンストックを受けたい」と阿蘇グリーンストックを受けたい」と阿蘇グリーンストックを受けたい」と阿蘇グリーンストックを受けたい」と阿蘇グリーンストックを必要という。

め、たちまち草原は失われてゆく。出来なくなった土地は、雑木が生え始野焼きなしでは維持できない。野焼き原景観の保持には欠かせない存在で、原景観の保持には欠かせない存在で、

いる。山口県・秋吉台や福岡県の平尾台の野焼きは「観光資源」の維持のための野焼きが最近は火山のない韓国や中国の旅行者が急増、阿蘇山の火山活動や草原景観を楽しんでって草原は欠かすことのできない「観光資源」となっている。国内の観光客だけでなく、泉だけでなく、草原に魅力を感じていることがわかってきた。特に、国立公園の阿蘇にと観光の為の草原維持も重要になってきた。地元民にも、観光で訪れる人々が、火山や温



ボランティアなどによる阿蘇の野原

# 阿蘇草原再生千年委員会(阿蘇グリーンストック (公益財団法人) 専務理事・桐原・ 章さん

を行っている。阿蘇の草原はみんなの共有財産という意識を広げ、守り、育てていきたい」然体験、農業体験学習事業、森づくり活動、あか牛オーナー制度など草原を守るための活動が重要だが、なかなか、その方向に進んでいないのが現実だ。阿蘇グリーンストックでは自一般に理解を深めていきたい。基本的には、第1次産業・農業で地域の経済が保たれること「草原は自然に存在するものではなく、人の手で保たれているということについて、もっと

6年には世界ジオパークに認定されている。 阿蘇地域は国連食糧機関(FAO)が世界農業遺産に認定(平成25年5月)、また翌2

#### 2 阿蘇の爆発

からレベル2に下げられ、火口周囲は立り入り規制がかかっている(平成29年8月現 と見られ、河口から1km以内に噴石が飛んだ。その後、噴火警戒レベル3(入山規制) 阿蘇山は平成27年9月14日、噴煙を約2000m上げる爆発的噴火、水蒸気爆発

ガスが地表を走った。死者12人。昭和54年にも大きな爆発、観光客3人が犠牲になっ 噴火している。昭和33年6月24日夜、爆発による噴石が200m近く吹き飛び、火山 ている。平成元年前後にも活発な噴火活動が続き。現在の噴火は20年ぶり。 阿蘇中岳は地下約5000mにマグマだまりがあるとみられ、それが7つの火口から

いランプが点灯する。 活動が活発化すると入山規制が行われる 火口への遊歩道には、噴出する火山ガス(硫酸、塩酸を含むガス)の危険を知らせる赤

### ○爆発のエネルギー

する。 阿蘇の爆発は、小説をはじめ、三好達治の「大阿蘇」など詩歌、映画やアニメにも登場 。岡本太郎の言葉「芸術は爆発だ」があるように、火山爆発は人々の心を揺さぶるの

の世相を吹き飛ばす「文明の革命」の必要を思った。 夏目漱石は阿蘇の地の底のエネルギー、その鳴動と噴煙に、金力や権力が我がもの顔

立ち上がる」。その雄大な光景に 「百里の底から湧き騰(のぼ)る濃いものが渦を巻き、渦巻いて、幾百噸の量とも知れず

「僕の精神は、あれだよ」と圭さんが言う。

「革命か」

「ウン、文明の革命さ」

今も活動を続ける阿蘇火口は、巨大噴火の歴史を語り、

[二百十日] (明治三十九年)

九州島創造の底知れぬエネル

ギーを感じさせる。世界ジオパークや地質100選に選ばれている。

## 火のまつりー 阿蘇神社 (肥後国一の宮)

3

とし、次第に武士団化、居城を南阿蘇に構え、勢力を拡大していった。 細川藩主の支援で現在の社殿が建設された。阿蘇氏は十一世紀ごろから阿蘇地方を社領 社殿は三つの神殿からなる。天門年間に焼失、約三○○年も仮社殿だったが、江戸末期、 肥後国一の宮。参道中央に国重要文の「楼門」。二層の屋根を持ち、圧倒的な存在感だ。

伐からは神職を務め、加藤清正、細川歴代藩主の篤い保護を受けた。 しかし、阿蘇氏は大友、島津の二大勢力に押され、力を失っていったが、秀吉の九州征

れて、いかにも「火の国」らしい祭りとなっている。農業神「国龍神」が姫神を迎える祝 穣を祈願して、境内で行われる。茅の束に火をつけ振り回すと、幾つもの火の輪が入り乱 いの神事で、一般参拝者も参加できる。 神社には古くから「火振り神事」(国無形民俗文化財)⑭が行われている。春、

殿も大きく被災した。復旧工事への協賛を募集している。 ※ 荘厳な楼門、拝殿、3つの本殿(いずれも国指定重要文化財)は熊本地震で倒壊、 本



(国無形民俗文化財) 火振り神事



倒壊した阿蘇神社楼内

# 歴史と文化の街歩き

### 1 偉容を誇る熊本城

#### 探訪コース

#### 熊本城本丸―二の丸広場・県立美術館 -細川荊部邸--千葉城跡--藤崎八幡 小泉八雲旧邸 - 限本城跡

601年) から7年がかりで築城、大阪、名 戦国武将、加藤清正が関ヶ原の合戦の後(1 古屋城と並んで日本三大名城に数えられ 熊本城(国特別史跡)は熊本のシンボル。

る。標高50 mほどの茶臼山全体を城郭とし、西内堀は坪井川、南は井芹川、 日の猛攻にも耐え抜き、跳ね返した。 返しの石垣の城壁は「鉄壁」の名にふさわしい。神風連の乱、さらに西南戦争での約50 誇る。城内は天守閣、 など、川を巧みに防御の濠に使っている。城郭は周囲5・4km、 本丸御殿、49の櫓、29の城門などを配し、特に髙く反った武者 98万㎡に及ぶ偉容を 外濠に白川

城当時の姿を保つ三層五階の宇土櫓(重文) が現れる。 西南戦争などでも焼け残った唯 備前掘沿いの坂を登り、南大手門から本丸正門「頬当御門」へ。正門を入ると、左手に築 行幸橋のたもとに立つ清正像に迎えられ入城し、漆喰の長壁(約242m)を見ながら

長塀沿いの大楠前から、 角にせり上がる。さらに「忍び返し」の鉄串も鋭く突き出す。さすがに忍者も登れまい。 は緩やかな約30度で組み上がり、次第に傾斜を増し最上段は75度以上、ほとんど直 江の石工集団「穴太衆」 築城四○○年を記念して本丸御殿が再建され、大広間、茶室、大台所などが築城当時に 天守閣に歩を進めると、黒く強大な石の壁が立ちはだかる。「武者返し」の城壁だ。近 天守閣を見上げると、幾重にも重なった城壁に圧倒される。 (あのうしゅう) の石組み技術の結晶。ガイドの説明では、下段



加藤清正像 (熊本市本妙寺所蔵)

の7本槍筆頭と称された武勇の清正 掛けた冬、夏の陣で大阪城落城。秀吉軍 る途中、重病となり死去。徳川家康が仕 ことだろう。秀吉恩顧の臣、加藤家は一 都二条城の会見に立ち会い、熊本に帰 しかし、清正は、徳川家康と秀頼の京 あの世で無念の思いをかみしめた

7年をかけて築城している。 六年(1601)から、新たに熊本城を 清正が27歳で入国した当時は、 城の歴史、武具などが展示されている。 風、横に高さ19mの小天守。内部では 城だが、関ヶ原の戦いが終わった慶長 元。高さ30m、二層の千鳥破風に唐破 三層六階の大天守閣は昭和35年復 隈本

地下通路。防御のためだが、見学者には 張った大御台所、横の廊下から鶴、 れた本丸御殿に入る。天井に太い梁を け、眼前に大天守閣。その横の、復元さ は本丸、天守の防御のための仕掛けだ これから始まる御殿ドラマの幕開き前 蘇った。まず「闇御門」と呼ばれる暗 な障壁画を巡らす「昭君の間」がある。 ったのだろう。階段を登ると視界が開 桐、若松之間と続き、その奥に華麗 「闇」、心憎い演出に思えるが、実際 梅

男・秀頼を迎えるために造られたとも 伝えられる。 の間」として、一大事の時は秀吉の長 られた。一説に、 だ中国・王昭君の絵物語で、清正が狩野 派絵師に描かせたと伝えられるが、復 元は往時を蘇らせる技法と努力が重ね 「昭君の間」の障壁画は匈奴に嫁い 「昭君の間」は 「将軍



代で改易させられ、絶えた。

文の細川」 肥後五四万石は代わって、細川家が継ぎ、熊本城は幾度も城改修を重ねた。「武の加藤、 両家は多くの歴史と文化の遺産を城と城下町に残している。

激動の時代を生き抜き宮本武蔵を召し抱える(忠利)など文武両道の細川家の基となっ 小倉から肥後入りした。幽斉、忠興、忠利は信長、秀吉、家康が天下を目指し覇権を争う め、古今伝授(古今和歌集の語句の伝授)として名を成した。2代目は茶人・千利休七哲の 忠興、妻は明智光秀の娘・ガラシャ。三代目が忠利で、改易された加藤家に代わって、 細川家初代は藤孝(幽斉)で足利将軍家に仕え、近世歌学の祖とも称される。歌道を極

肥後椿園があり、季節、季節に、品種改良を重ねられてきた名花が楽しめる。 キク、サザンカ、アサガオの肥後六花を品種改良で誕生させた。熊本城内に肥後六花園と 今伝授の間」は京都から移築された。八代目・重賢は、ツバキ、シャクヤク、ショウブ、 水前寺成趣園は桃山式の回遊園で忠利から三代にわたる藩主が造園、幽斉からの「古

点。県立美術館はその一部を定期的に交替、展示している。 品は東京・目白台の永清文庫に収められている。国宝八、重要文化財32を含む、約1万 る。十八代護熙は熊本県知事から首相に上り詰めた。歴代の細川家当主が収集した美術 県立美術館(熊本城二の丸公園)には十七代細川護立の近代化コレクションを鑑賞でき

興のシンボルとして天守閣の早期復旧に取り組む 閣の屋根が崩れ落ち、鉄壁を誇った石垣や重要文化財の宇士櫓など13棟、復元建物2 0棟が損壊し、被害総額は634億円に上る。熊本市は20年計画で復旧する計画で、復 平成28年熊本地震 (4月14, 16日) によって熊本城は大きな被害を受けた。 天守

## 2 歴史と文化の城下町

を物語る事跡も多い。 また、幕末の横井小楠、明治の徳富蘇峰、蘆花兄弟、熊本バンドなど熊本人の進取の精神 ゆる」都市だ。加藤清正が城下町(新町、古町など)の基礎を築き、その上に細川藩の歴代 小泉八雲らが赴任、その住居と共に、熊本、阿蘇を舞台にした作品を残している。 藩主が文武の花を咲かせてきた。西南戦争の戦禍を経て、旧制第五高等学校に夏目漱石、 熊本市は、市歌で「常盤の緑いらかを包み」と歌うように、杜の都と呼ばれ「文武さか





**多あさがお** 











# 肥後六花 (熊本本城内・肥後名花園)

再春館を造り、それをきっかけに、藩内に花への関心を広げた。 重一文字咲き、特に花芯の美しさを誇る。重賢は薬草園と医療を施す 主・細川重賢が「武士のたしなみ」として奨励、品種改良が進んだ。花は、 肥後菊、ツバキ、朝顔、サザンカ、シャクヤク、ショウブの六種の花を独特 「肥後の花」として品種改良している。肥後椿は、熊本市の『市花』。六代藩

# ① 城下町―古町と新町の町並み



都市は常に新しく生まれ変わる。戦争があり、平成28年熊本地震にも見舞われた。熊本市には、それでも新町・古町には450軒もの古民家・町屋が残ってには450軒もの古民家・町屋が残っていた(町屋研究会調べ、2007年)が。毎年10棟程度が老朽化し解体されてきた。そこへ熊本地震が発生、95軒もきた。そこへ熊本地震が発生、95軒もで町屋が倒壊、もしくは半壊で解体される。戦争都市は常に新しく生まれ変わる。戦争

街道や薩摩街道など4つの街道の起点・新町は熊本城からスタートする豊後

ぶ街となっている。 ×60m)が行われた。敷地は間口を狭くして、深い奥行きを持ち、武家屋敷と町屋が並以60m)が行われた。敷地は間口を狭くして、深い奥行きを持ち、武家屋敷と町屋が並口に当たる。清正の築城と同時に街づくりが始まり、南北に長い短冊の町割り(120mぽ)をあり、熊本城への玄関

軍を迎え撃つ官軍との激戦が繰り返された。された。町は坪井川と内堀で囲まれ、寺町として防衛拠点の役割を担い、西南戦争では薩道はクランク、直角の曲がり角を持ち、防御を固め、侵入する敵に見通せぬ工夫が凝ら

ンションが建てられ、往時の面影は消えつつあった。しかし、旧第1銀行が保存され吉田明治以降も流通の中心地域として発展した。その後、戦災や高度経済成長期にビルやマ古町は職人町。呉服、鍛冶屋、大工町などがあり、それぞれの商品を並べて賑わった。

松花堂など古い建物と町並みが残っている。

三浦さんたち若い市民たちによって、城下町・熊本市で最も古い新町と古町の「町並みづ皆に知ってもらいたいとボランティアガイドを引き受けていた。を引き受けてくれる。3人いるガイドの一人だという。熊本を代表する城下町の魅力を和服姿が良く似合う「新町小町」・三浦瑠璃さんが待っていてくれた。新町のガイド役

# 加藤清正の土木事業

くり」が進められている。

276

用水、防火用水、親水性などに利用できるよう都市型の利水工事も行ってい城下を流れる白川では流路の変更、坪井川ではお濠としての活用のほか生活み堤、石刎、沈み堤など特別な工夫を凝らした治水工事を行っている。また特に緑川と白川の治水事業は様々な河川技術を駆使しており、緑川のかす加藤家の後を継いだ細川家も「清正公」として大切に扱った。加藤清正は熊本城築城や城周辺の河川改修のほか、干拓堤防の築堤による加藤清正は熊本城築城や城周辺の河川改修のほか、干拓堤防の築堤による

# ② 転々と借家住まいの漱石

いる。
開されている。最後の転居先が漱石旧邸(熊本市・坪井町)で原稿などが一般公開されていろいろな家に住んでみたかったのだろうか。漱石が暮らした家のいくつかが保存、公熊本での夏目漱石はよく転居した。熊本在住の4年間で6回も借家を転々としている。

# 名月や 十三円の 家に住む

高い家賃に、ひと文句、言いたげだ。

の関係が襖や1階と2階の隔たりの中で描写される。詳細な説明が行われている。「心」「彼岸過迄」など間取りが詳しく書き込まれ、登場人物漱石は若いころ、建築家を志ざしていた。彼の小説の中には、小説展開の舞台となる家の

熊本で結婚、長女も生まれている。まだ小説は書いておらず、もっぱら俳句作り、熊本

で詠んだ句は900余に及ぶ。

藤崎八幡宮

衣替えて 京より嫁を 貰ひけり

耳の穴 掘ってもらいぬ 春の風

財本での、若夫婦の初々しい毎日がり、強引に頼み、漱石家のり、強引に頼み、漱石家のり、強引に頼み、漱石家のり、強引に頼み、漱石家のり、強引に頼み、漱石家の大との警句をれたころにやってくる」などの警句をれたころにやってくる」などの警句をれたころにやってくる」などの警句をれたころにやってくる」などの警句をれたころにやってくる」

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)旧邸



漱石の6番目の借家(現在は記念館)



(大) は (大) は (大) で (大)

# ③ 新時代を入り拓いた人びと

# 〇「熊本バンド」の青年たち

が多い。 がのかたで閉校させられるが「熊本バンド」と呼ばれる徳富蘇峰ら青年信徒集団が、新島県の命令で閉校させられるが「熊本バンド」と呼ばれる徳富蘇峰ら青年信徒集団が、新島邸(コロニア風木造2階建て、県重要文化財)は明治3年建設で一番古い。熊本洋学校は 既本市には、キリスト教に関連する洋館が残っている。熊本洋学校の教師ジェーンズ

まり、祈祷会が開かれる。熊本洋学校35人が奉教書に署名したのを記念、日本での近代毎年一月三十日早朝、プロテスタント系教会の人たちが花岡山(熊本市横手)山頂に集





物語るカタルパの古木があり、5月、白い花を咲かせる。 を育てた。蘆花は小説「不如帰」で知られる作家。併設されている記念館には約1000 もあり、自由民権思想を教え、後に中国の革命家・孫文を支援した宮崎滔天ら多くの人材 点の兄弟の著作、遺品、原稿などが収集、展示されている。 庭には蘇峰と新島襄の親交を 徳富蘇峰、蘆花兄弟が暮らした「徳富旧邸」(熊本市大江)は蘇峰が開いた大江塾跡で

蘆花兄弟の父・一敬は、幕末、横井小楠に学んだ。

は小楠に会うためだった。 人だ。長崎に向かった勝海舟が坂本竜馬を連れて、豊後街道を歩き、熊本に立ち寄ったの 横井小楠記念館は小楠の「四時軒」 (熊本市沼山津) に隣接している。 小楠は幕末の激 勝海舟が西郷隆盛と並んで「天下に恐ろしい人物」とし、最も尊敬された学者の一





#### ④ 湧水の都

# 〇水前寺成趣園(熊本市水前寺公園・国名勝、史跡)

景を写して造園したといわれる。池には阿蘇からの伏流水が湧き出し、清水を保ってい たのが始まりで、中央の大池を海に見立て、築山・水前寺富士中心に東海道五十三次の風 細川家3代にわたって造り上げた桃山式回遊庭園。 入国した細川忠利がお茶屋を建て

る。

# 湧くからに 流るるからに 春の水

(夏目漱石)

復元されている。 和歌集の奥義を授けたとされる「古今伝授の間」 池北岸の出水神社には歴代藩主とガラシャ夫人が奉祀されている。初代・幽斎が、古今 (数寄屋造りの茶室) が京都から移築



策」は小楠の思想に基づいている

日本の骨格を示した彼の「船中八 話を聞いている。有名な近代国家・

竜馬は三度、小楠を熊本に訪ね、





水前寺成趣園(左)と古今伝授の間(右))

なったが、暗殺された。

コラム

幕末、小楠も明治新政府の参与と わす光景が浮かんできた。竜馬は

○江津湖など水湧く街

約6km、ひょうたん型をした湧水湖。江戸時代から舟遊びが盛んで、現在も水辺公園と して市民に親しまれている。 表が江津湖だ。清流が湧き出る湖に白鷺が舞い、スイゼンジノリなど珍しい植物も。周囲 は地下に浸み込み、白川や伏流水として熊本市を潤す。市内各地で湧水が見られ、その代 熊本市は阿蘇・カルデラから地下を流れる伏流水を水源としている。阿蘇に降った雨

招かれ藩改革や維新後の日本につ

がら熊本では冷遇され、越前藩に

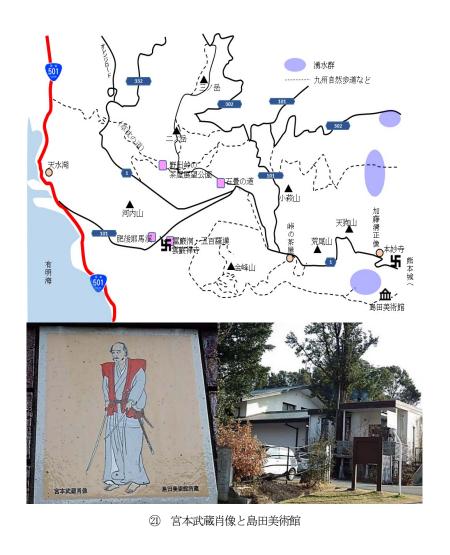
それだけ卓見の人材でありな も小楠の言葉の借用だ。小楠 「日本を今一度洗濯したく申し

れている。小楠と竜馬が激論を交

敷に座布団が二つ向き合って敷か いての建言を行った。四時軒の座

# 3

ングコースとして市民が親しむお山だ。明治時代の文豪、夏目漱石と江戸時代の剣豪、宮 市中心市街地から西へ、県道1号で金峰山(標高665m)に向かう。ハイキ 共にこの山を訪ね、 あるいは籠って、名著を執筆している。



容貌を良く伝えているとされている で武蔵と面会。武蔵が亡くなって数年後の作品で、その後の武蔵像原画になった。武蔵の 県道1号を走り、金峰山散歩の最初は竹林の中の島田美術館②。「紙本著色宮本武蔵像

その奥の院、雲巖洞図。馬頭観音が安置されているこの洞穴に籠り、書き上げた、とい う。坂を登って、岩戸公園には武蔵の白い坐像がデンとしわっている。「勝ち運を呼ぶ」 武蔵が、兵法の集大成、剣の極意を伝える「五輪書」を書いたのが霊巌禅寺(曹洞宗)

> 乱の人生を絶壁の洞窟に一人座し、振り返り、その真髄を書き残す、人生最後のまとめに 約700年前の建立という。 没頭したのだろう。全国に武蔵フアンは多い。来観者のノートには、千葉、埼玉、佐賀な 戸があり、姿は見えないが、その奥に石体四面の馬頭観世音菩薩が祀られている。武蔵は という。そこから竹林の坂道約200mを下って霊巌禅寺前に出る。古びた小さな山寺、 「天道と観世音を鏡として」五輪書を書き始めた。練り上げ、磨き上げた剣術・兵法と波 武蔵が籠ったのはその奥の洞窟。絶壁の中ほどに、大きく口を開けている。中央に格子 石段を登ると、岩の斜面に無数の石仏が座っている。江戸時代の五百羅漢②、 怒ったり、物思いにふけったり首が落ちた石仏が多いのは地震の為、という。 秋は大きな銀杏の木がまっ黄色になって立っている。

する地、水、火、風、空の五巻に分けて「まことの道」を示した。晩年は絵画、 剣術だけでは兵法の真の道に達することは出来ないと説き、宇宙を構成 細工物に肥後鍔など秀作を残している。 和歌に 書

ど遠来の人の名が並んでいる。

## 振りかざす 太刀の下こそ 地獄なれ 一と足進め

武蔵は佐々木小次郎との決闘の後、 細川家に指南役として三代目忠利に召し抱えられ、





後街道を使ったが、武蔵は自分の死後(享年62歳)も「殿の守護」のため甲冑姿で葬ら れることを遺言、武蔵塚(熊本市龍田町・武蔵公園) 「二天一流」を教え、また島原の乱の鎮圧戦にも出陣している。細川藩主は参勤交代で豊 「右直の構え」(二天一流の五方の形)。 は豊後街道沿いにある。銅像姿は

## 永清文庫 (東京都文宗区目白)

仙厓など禅僧の書画、中国をはじめアジアの工芸品セザンヌ、マチスなどの西洋 の国宝・時雨螺鈿鞍のほか重要文化財などを含み、歴代藩主の茶の湯道具、能衣 細川家が所蔵する美術、工芸品約6000点を収蔵、展示している。同家伝来 武具など細川家の「武と文の歴史」を物語る。文庫コレクションには白隠や

品も多い。 絵画、菱田春草の「黒きネコ」や横山大観らの作

16代当主・細川護立氏が昭和25年に江戸下

氏が一般公開した。 熊本県立美術館(熊本城城内)は永清文庫展示 同46年17代護貞

屋敷跡の細川事務所に開設、

24年には九州国立博物館で展覧会が行われた。 室を設け、年数回、 頭文字から取っている。 「永青」の名は細川家の菩提寺とかつての城名 入れ替え展示している。平成



理事長は元首相の護熈氏。

英国留学までの4年間を熊本で過ごしている。 夏目漱石は明治29年(1896)、愛媛・松山から第五高等学校の英語教師として赴任。

呼ぶ「草枕」では金峰山の峠の茶屋の描写などに生かされた。漱石は鳥越峠、野出峠をハ 千首を越える。小説執筆の準備も怠りなく、阿蘇山行の「二百十日」や自ら俳句的小説と イキングで越え、小天温泉(天水町)で湯治している。 親友、子規に勧められて、俳句に取り組み、阿蘇、熊本などの素材を読み込み、その数、

県道から金峰山の西麓へ。峠の茶屋公園が漱石の「草枕」冒頭に登場する、鎌研坂の坂

山道を登りながら、こう考えた。

(草枕一 冒頭

主人公の若い画家は、雨の中を山の細道を歩き進む。やがて「峠の茶屋」に辿り着く。

「おい」と声を掛けたが返事がない。

冒頭

峠。 県道1号から分かれて、石畳の道を通って金峰山頂越えへ。さらに1時間ほどで野出 有明海、雲仙・島原の眺望がすばらしい。

るる海の世のみである』 帆が小指の爪程に見えるのみである』『其外は大千世界を極めて、照らす日の世、照らさ 『春の日は限り無き天が下を照らして、天が下は限りなき水を湛えてたる間には、

かっている。 漱石は茶屋のおばあさんに道を聞き、この峠を越えて、下り、小天温泉(天水町) へ向

『山を越えて落ち着く先の、今宵の宿は那古井の温泉場だ』

トの想を得た。また、加藤清正の菩提寺・本妙寺もこの金峰山にある 金峰山で、宮本武蔵は人生の集大成・五輪書を書き、夏目漱石は小説家としてのスター

## 金峰山ハイキングコース

ど野外活動の施設があ 金峰山は熊本県立公園 山口から約60分。三の の岳、三の岳などへの で、私立少年自然の家な 岳は熊野岳から70分。 所まで約50分。 二の岳 居)から山頂の神社・展望 イキングコースがある。 (熊野岳)山頂へは野出登 の岳へは登山口(大鳥 金峰山には一の岳、一



# 四 豊後街道を行く

かな湧水と温泉を繋ぐ観光道路でもある。現在の国道57号にほぼ並行して走る。阿蘇、九重の火山群の山々、広々とした高原、豊現在の国道57号にほぼ並行して走る。阿蘇、九重の火山群の山々、広々とした高原、豊豊後街道は、肥後(熊本)から豊後(大分)へ125km、九州を横断する街道である。

二重峠)が残っている。 路で大阪に向かった。現在も杉並木の大津街道(熊本~大津)、清正公道(大津~阿蘇市・比て、熊本城近くの札の辻から、岡藩・竹田を通って、鶴崎港から周防灘—瀬戸内海を海この街道を切り開いたのは、戦国武将・加藤清正。肥後国に封ぜられ、大阪城への路と

津と内牧の2か所だった。した。豊後街道の肥後藩外の宿場を領地として確保したのである。肥後藩内の宿場は大した。豊後街道の肥後藩外の宿場を領地として確保したのである。肥後藩内の宿場は大(久住~鶴崎間)に久住、野津原、鶴崎に宿場を造り、街道用飛び地、約二万三千石を領熊本藩は54万石の大藩で、天草地域も領することになっていたが、願い出て、豊後

歴史の道を辿ってみよう。 代圏の道として使った。4泊5日、大名行列がこの街道を練り歩いた。九州を横断する、、江戸時代、加藤家に代わって、肥後入りした細川家は、清正の、この豊後街道を参勤交

## 【札の辻~熊本城~一里木】

豊後街道の出発地は「札の辻」。熊本城のの外側、元標公園になっている。元標は道の外側、元標公園になっている。元標は道の外側、元標公園になっている。元標は道の外側、元標公園になっている。元標は道の強崎まで三十一里、一里は約4kmだった。旅人はこの道路標識で現在、歩いている。 
一型に、旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
旅人はこの道路標識で現在、歩いていた。 
ないませいる。 
一型に対している。 
一型に対して

福岡・黒田藩は城下に入れず20km以上街道が城内を抜けることはほとんどない。札の辻を出ると、すぐ熊本城内に入る。

とうれて、いる。 道 の 両 側 は高い石垣で攻めやすい構造、薩摩の大名行列は場内を駆け足で抜けたと伝離れた冷水峠を迂回させている。 清正は鉄壁の熊本城に自信があったのかもしれない。

城 外 に 出ると観音坂を下って坪井川を渡り、白川沿いへ。白川は今も昔も暴れ川

漱石が教鞭をとった第五高等学校。やがて「一里木」石柱に着く。よく氾濫する。「一夜塘」(寛政8年)の石垣堤防から,街道は熊本大学前へ。前身は夏目

## (武蔵塚~大津街道)

「ジード斤っぱ首と」ド斤ら、シーに接合いた。清正は屋久杉の苗を取り寄せて植樹、も広く、旧街道の雰囲気がそのまま残っている。清正は屋久杉の苗を取り寄せて植樹、ハゼ並木と杉並木の約6kmの道(菊陽杉並木)となり、途中に杉並木公園がある。道幅に入る。竜田口駅付近から、沿道の一部に杉の並木があったが、次の三里木駅を挟んで、このあたりから豊後街道(旧国道57号)のハイライトの一つ「杉並木の大津街道」⑩

「杉一本折らば首を一本折るべし」と厳命「杉一本折らば首を一本折るべし」と厳命におったろう。現在も1100本を超える杉一が並木を造る。沿道の人々は、枯れた木を植て、この杉並木の景観が今に引き継がれてて、この杉並木の景観が今に引き継がれているのだろう。

い。幕末、九州を旅した頼山陽の詩碑を見つ

欠くる處時々阿蘇を見る老杉道を挟んで他樹無く熊城東に去ればすべて青蕪大道平平平砥も如かず

熊本城

及び、「日本の道百選」に選ばれている。大津街道は子飼から大津まで約15kmに



#### 【大津宿場町】

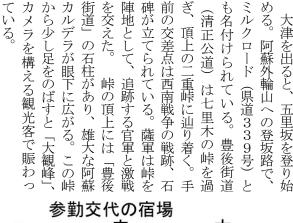
版が立てられ、当時の賑わいと由来を解説している。った。橋のたもとには高札場跡、手永会所跡、御蔵跡など諸施設が配置された跡には説明る勤交代の一日目の宿は、大津。現在の日吉神社③に殿様が泊まった大津御茶屋があ

もかかった。徳川家への忠誠の証を強制された西国大名の江戸への街道旅は出費も大き肥後五四万石、千人以上の大名行列になった。一年おきの江戸への参勤交代は35日

また、幕府の狙いでもあった。そ 藩財政を窮迫させた。それが 文化の交流にもなった側面も 方で、街道沿線の宿場町は潤

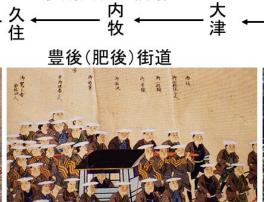
#### 札の辻 (熊本城

### 里程元標



の文字はそれを物語っているよ 大石に刻まれた「岩坂村つくり」 砂崩れや土石流で街道の造成は の名残を残している。火山灰土と れにくく、且つ安全な街道として 溶結凝灰岩の外輪山は急崖で、土 宿に下る急坂は石畳によって、崩 も阿蘇・外輪山の二重峠から内牧 によって街道は整備された。現在 を抜ける難路が数多くあったが、 阿蘇外輪山や九重の山岳地帯 維持管理に苦労があった。 細川両家によって石畳など

鶴崎





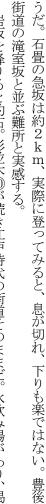


27里程元標跡



29鶴崎港を船出する波奈之丸





揺らしている。樹齢300年、高さ35mもの槇の古木も。 家で屋敷と庭が往時をしのばせる。 いたのどには、阿蘇の湧水は特別、おいしかったろう。 岩坂を降りると的石。杉並木⑩が続き江戸時代の街道そのままだ。水飲み場があり、渇 近くに殿様ご休憩の御茶屋⑬が当時の雰囲気をそのまま保っている。お茶屋番の小糸 湧水を庭に引き、澄んだ流れに水草が長い緑の葉を 一休みして、黒川に沿って約





⑩豊後街道(大津) (日本の道百選、

## 【内牧から坂梨、滝室坂へ】

10km、二日目の温泉の宿泊地・内牧の宿へ。足を伸ばせば阿蘇神社⑳

途中、泊まっている。現在も宿場の面影をよく残している。国道57号を右へ。坂梨宿場 街道散策図の看板がある。 魚に宿場どおりを歩くと下町、仲町、上町の街並みが続き、宿 る。その麓に宿場町・坂梨。勝海舟、坂本竜馬、吉田松陰ら幕末の有名人が長崎への旅の 内牧から坂梨までは阿蘇カルデラ内の平坦地を行くが、次の難所・滝室坂が待ってい



(左) 日吉神社と(右) 馬つなぎの石(大津宿)



(国重文) ※倒壊前

ている。

阿蘇神社の神事と

えに登ってゆく光景が思い浮かぶ。 は次の野津原、肥後藩の飛び地だ。 今市では、泊まらず休憩のみ。岡藩肥後藩主に「そば」を振舞ったという。泊まり 事な石畳の街路(660m)が残り、 竹田の岡藩が造り、道路の中央に石畳(約800m)が敷かれた。今も、 は石畳が復元されてはいるが、それでも登るのは難行であり、 【久住、今市宿から鶴崎へ】 豊後に入り、久住宿に泊まる。翌日は久住高原を歩いて今市宿⑬へ。今市の宿は 往時のにぎわいを偲ばせる。 大名行列が息絶え絶 ・平石の見

た。 て「なみなしまる」と読ませた。 点であり、海路、大阪、江戸に向かう出発地点でもあり、御茶屋はけた違いの規模 休憩した今市を出て、野津原宿に泊まり、翌日終点の鶴崎の宿へ。豊後街道の終 細川家藩主は鶴崎港から御座船「波奈之丸」⑳で船出した。船旅の安全を込め 約110m四方の土地に、御殿、 茶屋、役人の詰所のほか米蔵、武器庫もあっ

のばれる。街道への曲がり路に、勝海舟や坂本竜馬が通った石柱が立てられてい 屋、酒屋など昔の屋号を看板に掲げていた。その数、約50軒。

宿場町の賑いがし

部豪雨で通行できなくなった。近隣の国道57号も道路側面のがけ崩れで通行止 道は外輪山の急崖で、雨でガレが出来、土石流も頻発する。平成24年、九州地方

坂梨の宿で疲れを癒し、元気を取り戻して、滝室坂の厳しい急坂邸に挑む。この

めを強いられる大きな被害を出した。この滝室坂通過のためトンネルが計画され

坂なし坂梨に坂あり」と天下に知られた約3kmの曲がりくねった細い坂道。現在

豊後街道最大の難所と言われるだけに、峠までの高低差、

約200m。

「大阪に

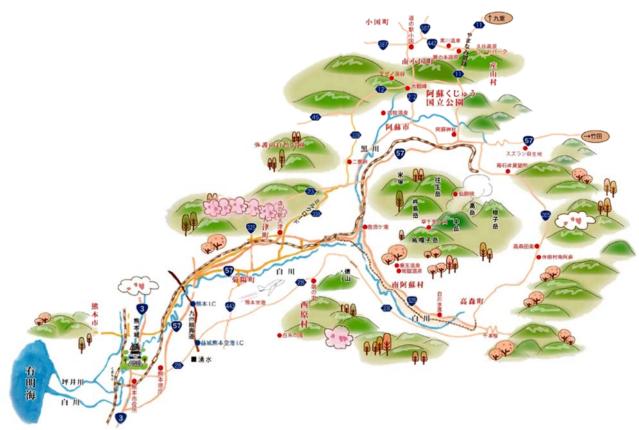


到小中学生による豊後街道徒歩の旅(滝室坂の急坂)



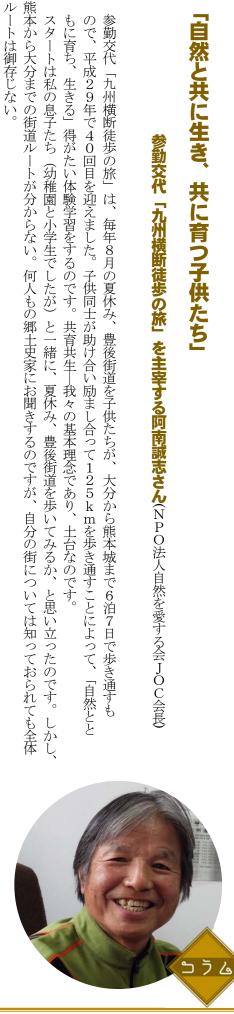






# **参勤交代「九州横断徒歩の旅」を主宰する阿南誠志さん**(NPO法人自然を愛する会JOC会長)

参勤交代「九州横断徒歩の旅」は、毎年8月の夏休み、豊後街道を子供たちが、大分から熊本城まで6泊7日で歩き通すも スタートは私の息子たち(幼稚園と小学生でしたが)と一緒に、夏休み、豊後街道を歩いてみるか、と思い立ったのです。しかし、 もに育ち、生きる」得がたい体験学習をするのです。共育共生―我々の基本理念であり、土台なのです。 ので、平成29年で40回目を迎えました。子供同士が助け合い励まし合って125kmを歩き通すことによって、「自然とと



すから家の土台用にはがされていたりー。2年目は高校山岳部5人とテントを張りながらの徒歩の旅でした。 実際、道はぼうぼうの草に覆われておりマムシに用心しながら「このあたりだろう」と見当を付けながら歩きました。二重峠など一部、石畳みは残っていましたが、平石で

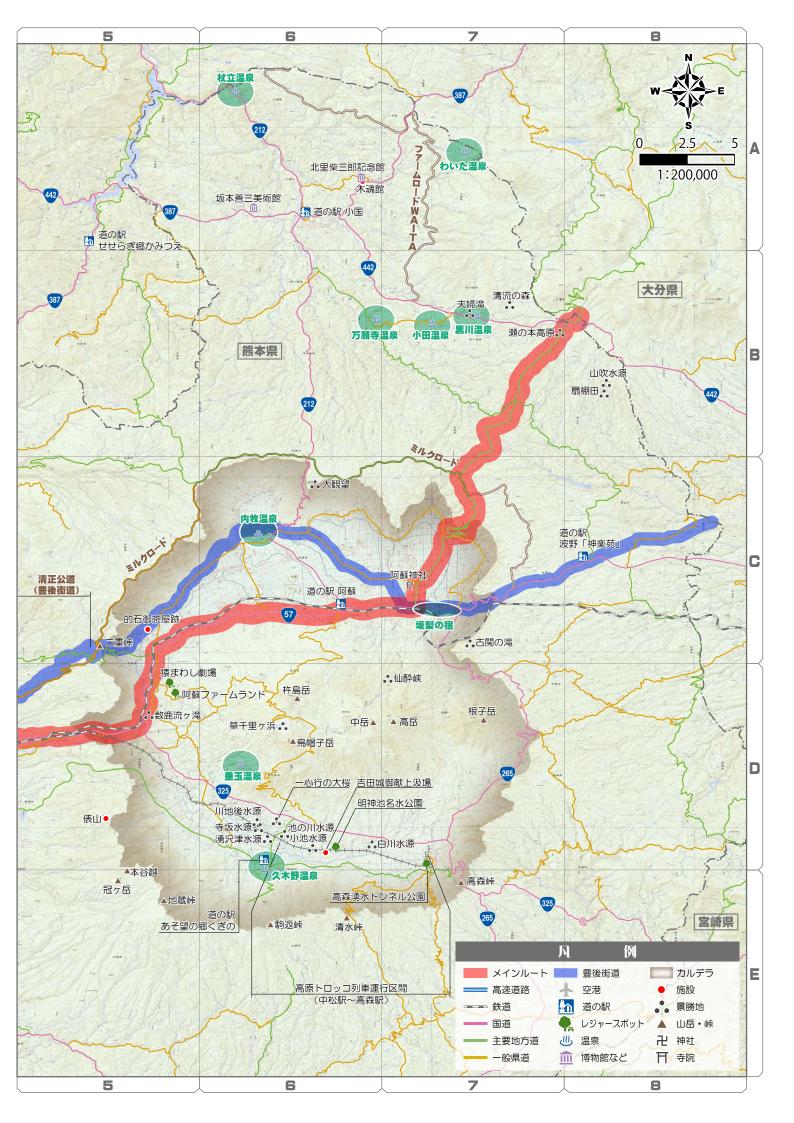
らう。実際、何度の参加を希望するリピーターが参加者の半分くらいいますし、十数回参加、すでに累計1600km以上歩いた子供もいます。 という親もいますが、汗まみれになった体は自分で拭く、自分の身の回りのことは自分でやる。それを「歩き通す」体験の中で自から学びとるのです。 したら100人を超え、現在は200人を超えています。親の同伴許しません。例えば、風呂は7日間のうち一度内牧温泉に入るだけです。「お金を出すから入れてやって」 3年目に小学3年生から中学生までを対象に、参加者募集をかけました。この時期は子供たちが自我に目覚める一番良い時期だと考えたのです。30人が集まり、10年 また、一番大切なのは「自分から参加したい気持ち」です。彼ら自身のチャレンジでなければならない。ホームシックになる子供もいますが、その時は、しっかり泣いても

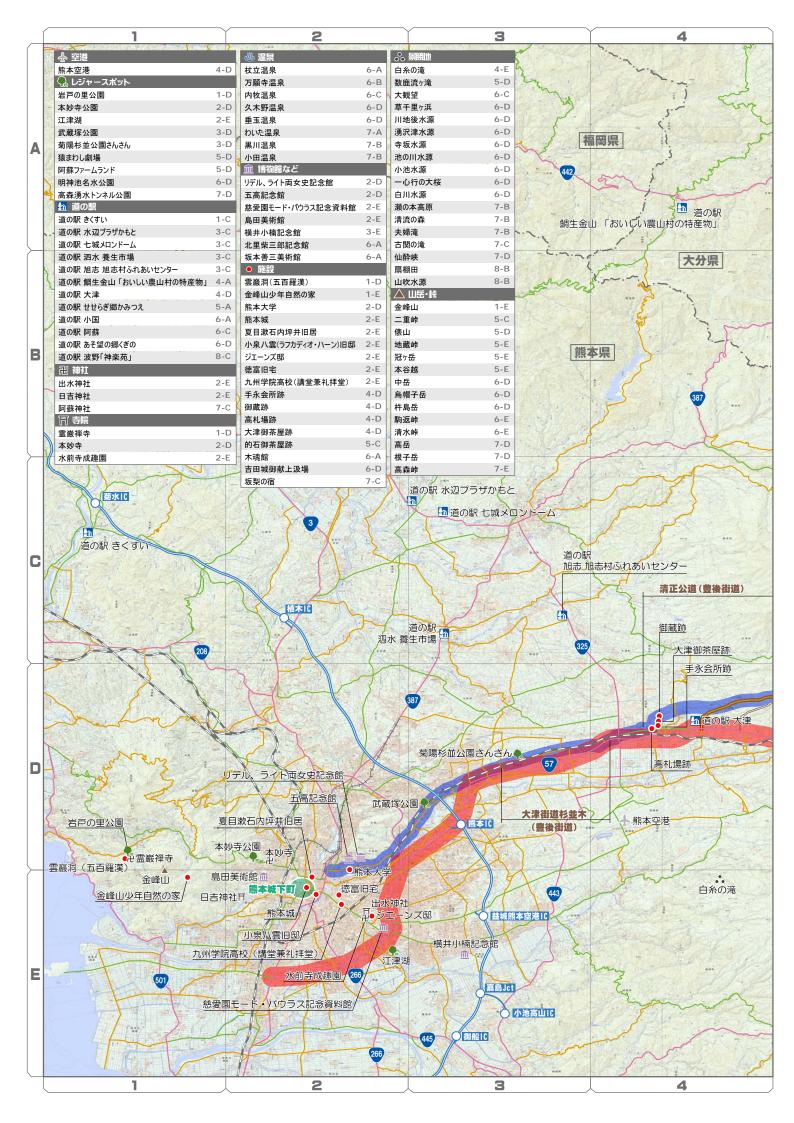
我々「自然を愛する会」は自然を土台に考えていますから、例えば台風接近の時でも、中止することはない。台風もまた自然の一部ですしそれを体験することも大切ですか

らの力がベースなのです。 から朝食の用意を始め24時間、子供たちを見守り、励まし、実践して行く。それはすごい力であり、それに現れた彼らの「子供への思い」は感動的です。「徒歩の旅」は彼 勿論、安全は一番大切です。同行する60~70人の大学生たちが朝の起床から就寝まで、子供たちに、ずーっとタッチしています。朝5時起床ですから、その前午前3時

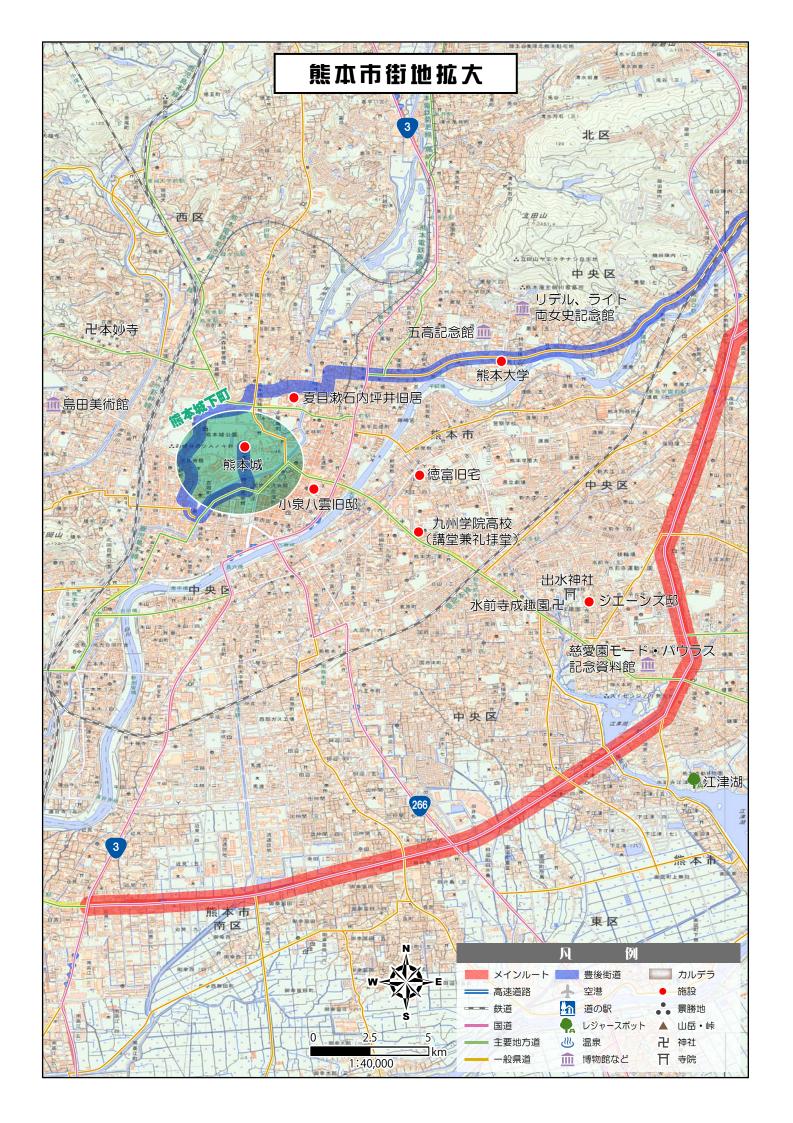
する子供たちになって欲しいと思います。 子供たちが学ぶことが多いのではないでしょうか。東日本大震災や大地震に遭ったネパールの人びとと『共に生きる』自分に何か出来るものはないか、そのように考え、理解 ウモロコシ、トマトも毎年、用意していただいています。「徒歩の旅」に合わせて収穫できるように、種まき・苗植え時期を決めておられるとも聞きました。こうした好意も、 宿泊は学校の体育館やお寺などですが、本当にお世話になっています。沿道の方々の応援と励ましもパワーになっています。参加者全員にとんかつ用の肉の差し入れ、ト

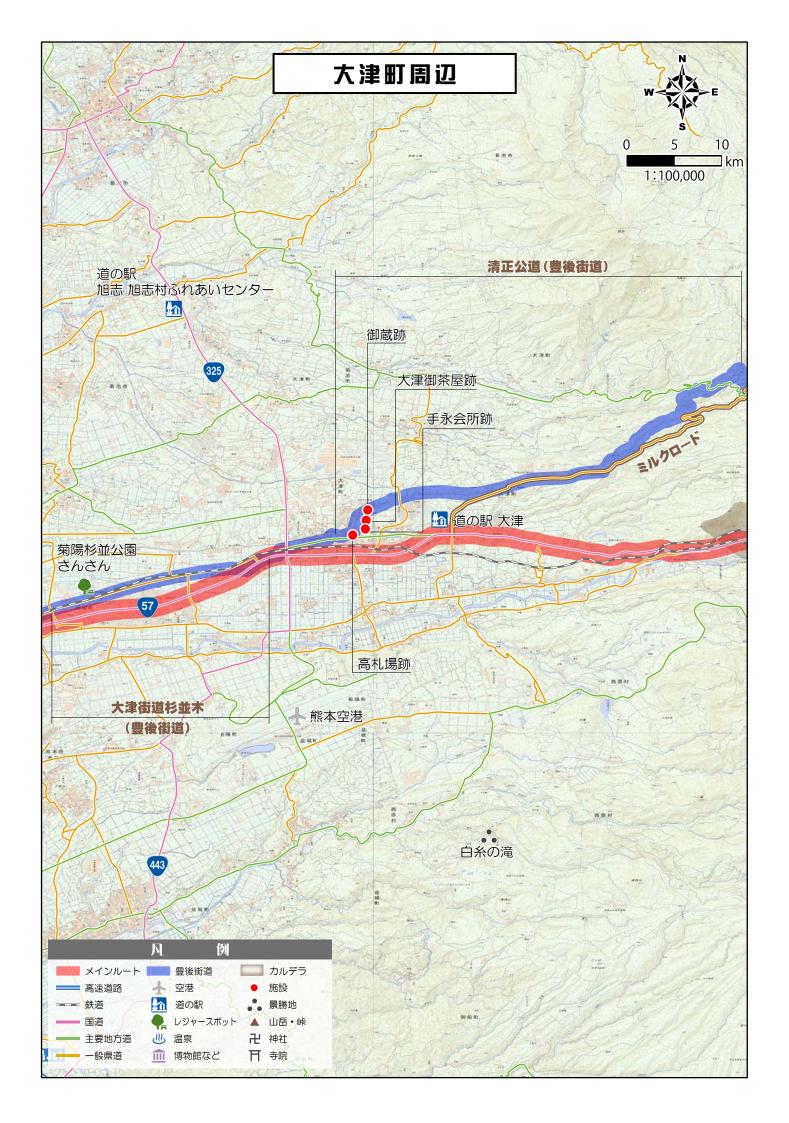
なものだったろうか、に思いが及びます。それが歴史の歩みに学ぶ、街道を歩くことにはその意味があるのです。 また、この「徒歩の旅」は過去に学ぶということでもあります。今歩いている街道は、参勤交代の江戸時代から、誰が苦労して造ったのか、400年前の人々の苦役はどん

















#### 九州風景街道ガイドブック

ひとのくに、美のくに九州 **Q-9** 九州横断の道 阿蘇くまもと路 ~阿蘇山の大パノラマと熊本城下町~

平成29年12月20日 初版第1刷発行

著者 ルートガイド編纂委員会:樗木武、堤昌文、玉川孝道、吉武哲信、桝谷秀秋 九州横断の道 阿蘇くまもと路担当(文責):玉川孝道

発行 九州風景街道推進会議

事務局(九州地方整備局道路計画第二課内)

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。